

2回目のワークショップを開きました！

10月31日(土)、秋らしい快晴の中、39名の方にご参加いただき、せせらぎ公園休憩所を会場として、2回目のワークショップを開催しました。

当日のプログラムです！

テーマ：公園の残す所、変える所について考えよう！

- 【目標】 前回出された意見や疑問点等を皆で共有する。
- 検討に必要な情報を提供して皆で共有する。
- 得られた情報を現地で確かめる。
- 4つのエリアそれぞれの方向性を考える。

9:30～ 全体会 (多目的室)

前回ワークショップのまとめについての説明を行ない、検討を進めるための基礎的な情報を提供して共有しました。



基盤工事担当課長挨拶



資料説明

10:25～ グループワーク① (現地視察)

設定した4つのエリアについて、知っていただきたい情報を提供するために、それぞれの場所にファシリテーターを立てて、現地での解説を行いました。



体育施設周辺エリア



富士見坂園地エリア



第2水源周辺エリア



文化施設周辺エリア

11:30～ グループワーク② (多目的室及び集会室)

前回とは異なるメンバー分けで5つのグループを作り、整備の方向性として想定できることの例示を基に、4つのエリアについて、意見をいただきました。

グループワークの様子です



赤色グループ



青色グループ



黄色グループ



緑色グループ



紫色グループ



航空写真を使って検討

12:15～ 全体会 (多目的室)

今回は、現地視察の時間を長くしたため、グループワークの時間が十分に取れず、グループ発表ができませんでした。

グループワークでの意見をご紹介します！

1. 公園全体に関わる話題

1-1. これまでの計画の継承が大切

- ・先人達の想いをくんだ開発計画をすべき。公園は今の人のためだけでなく過去・現在・未来と引き継がれていくもの。
- ・過去の調査や議論をちゃんと生かしてほしい。後から調べたらこんなのが出てきたということにならないように。
- ・整備を最小限度にするという平成16年の理念を大切にしてほしい。

1-2. 市民参加の促進

- ・ボランティアが集えるスペースづくりが必要。

1-3. 夜間閉園の継続

- ・柵に囲まれた管理できる公園なので時間制限をすべき。

1-4. 公園利用のルールづくり

- ・ゆずりあいのルールをつくるべき。

1-5. 周辺施設とのすみ分け

- ・せせらぎ公園と多摩川台公園があるが、このすみ分けを考えるべき。例えば遊具(子ども)は、多摩川台公園にあるので、今後大きな視点で考えていくのが良い。

1-6. まちづくりへの配慮

- ・公園側に駐輪場があり、沼部や富士見坂から駐輪場に来る人は踏切を渡って商店街にこない。駐輪場があるために商店街に駅利用者が立ち寄りず店主たちはみな困っている。

2. 体育施設周辺エリアに関する話題

2-1.内容・規模・配置と利用想定

■規模

- ・体育施設は2000㎡以上が良い。娘がソフトテニスをやっており、練習場所が限られているため。
- ・現在、他の体育館を使用している人達は是非高校の体育館の広さを希望。
- ・体育館はぜひ作ってほしい。子供達を含めて大会(バスケット、バドミントン)の実施。
- ・バレーボールコートなら2面取れる広さだとよい。
- ・体育施設は大会を開きたいし、避難所としてもできる限り大きく広いものが必要。
- ・体育施設としてよりも、避難所としての活用を考えて、大きさををもっと良く考えてほしい。
- ・規模感として提示された面積は過大。観客席は不要。

■内容

- ・防災面を含め、住民のスポーツ利用に応じて施設の内容を充実し検討、計画、願う。
- ・思ったより広大な土地なので森を生かして立派な体育館を作ってもらいたい。地域の宝である子供達の為に。

■配置

- ・体育施設の建設場所によって判断が異なる。レイアウトを一緒に考えなければ、体育施設の大きさについてだけ問われても判断できない。再度前提をまとめ提示してほしい。
- ・体育館は半地下にすると水没の危険があるので、どちらかという高床にした方がよい。
- ・宗教団体の施設の隣地に体育館を建設すると、圧迫感があり、ゆとりある空間が失われる。
- ・上のグラウンドはどう使うのか？体育館はつくれないか？

2-2.防災機能

■地域防災計画上の位置づけ

- ・古墳群がこの周辺にあり、災害が少なかったことを示している。公園一体を避難場所として考えればよい。
- ・多目的広場を災害時の一時避難場所として利用すればよい。ただし、救援物資の保管場所としての倉庫は必要。
- ・避難場所から避難所へ格下げしてほしい。

■小中学校の避難所機能を補完

- ・コロナ対策で小中学校3校の体育館の収容人数が1/3になっているため、体育館はなるべく大きくすべき。

■想定以上の災害への対応

- ・体育館は悪くないか避難所として利用するには、想定以上の災害に対応すべき。浸水対策が必要ではないか。

■地域に残された唯一の避難所用地

- ・このエリアに大きな避難所を作る土地は他にないと思う。住民の安心安全のために早期の建設を望む。

■避難時の快適性に配慮

- ・浸水の危険性と建築高さ(10m以内)を考慮して良いデザインにしてほしい。避難施設ともなるので、災害時の人々の「快適性」を考えた計画してほしい。

■既存施設の防災機能で十分では？

- ・避難所は巨大な文化施設と富士見会館で十分。

2-3.体育施設の需要を明らかにすべき

- ・調布地区としては体育館の要望がある。
- ・周辺の様々な体育施設の立地、規模、利用状況を調査の上、機能や規模を考えるべき。
- ・既に区内にある同様の施設の利用状況はどうなっているのか。不足している(区民の需要にこたえられない)。どうにか対応すべきであろう。小中学校の体育館を一般に開放していたときも必ずしも利用が多くはなかったが。
- ・どのような需要、使い方を想定するのかを、需要の調査結果を含めて公開し、その上で進めるべき。

- ・屋内施設が必要である目的があいまいである。
- ・体育館の必要性をあきらかに。

2-4.自然への配慮、樹木の保全・復元

■失われた樹木の復元

- ・消失する樹木の復元は必ず実施してほしい。

■既存樹木の保全

- ・体育館により、今、育っている木を伐採し、その周りに、木の植樹をするというが、維持費、植樹費と、区の予算を湯水のように使うのはいかかなものか。
- ・多目的広場のまわりの緑は伐採しないでほしい。
- ・多目的広場の既存の緑を生かして最小限の整備をして自由な広場にしてほしい。

■自然と人工物との調和

- ・子供が大きくなっていくので体育施設は良い。但し、無制限に人工施設が増えない様に、人工施設の面積割合の目安を作ってはどうか。(自然：人工=80：20等)。予約なしで使える多目的広場もよい。
- ・遊園地→テニスコート→今ということだが、元は武蔵野の自然。人工物を極力廃して自然を残してほしい。

■自然に配慮した体育施設に

- ・体育館を作るとしたら、公園(緑)と調和する外観希望。植栽も自然を生かした配置にしてほしい。

■緑化による緩和

- ・体育館エリアで緑地を確保できるという説明もあったので、圧迫感の緩和策になるのでは。
- ・多目的広場の周囲に樹林など緑化対策を講じるべき。

■樹種を選ぶことが大事

- ・伐採した木のかわりに新たに植林することだが、広葉樹でなくスギなどの針葉樹では、木の実などがならず自然維持には不向き。

2-5.多目的広場の復元

- ・優先順位。1.失われたものの復元、2.体育館、3.避難所の順に場所を取る。
- ・文化施設ができた場所にあった広場は子供たちが遊ぶ貴重な場所だった。なるべく広く残してほしい。
- ・多目的広場はそのまま残し、いつでも自由に遊べるようにしてほしい。
- ・多目的広場の1つには、3オン3のバスケットやフットサルがプレイ出来る様に。
- ・多目的広場をできる限り広く取る。砂利ではなくバスケットのドリブルができたり、スケートボードができる地面がいい。
- ・体育館の周辺に多目的広場を2~3つ設置。休憩スペースも配置し子ども~シニアがスポーツで健康になれる様に。

2-6.車両動線、駐車スペース

■体育施設への車両動線と駐車スペース

- ・車の流れをどうするか問題。体育施設を避難所として活かすなら駐車スペースや大型車両の進入路が必要。
- ・災害時には多目的広場が避難時の駐車場になるので体育施設の周囲に常設の駐車スペースは不要。
- ・車の出入りや駐車場の車まで考えると体育館は不要。

■駐車場は最小限に

- ・自然を楽しむために遊具をおかないという話があったが、自然に接するために車で来ないという考え方もあるのでは？よって駐車場はミニマムで。
- ・駐車場の建設は不適当。何故公園に車で来るのか、判らない。

■緊急車両の出入り

- ・誠成公倫協から緊急車両が出入りできるのは良い。災害時に大型車両が入れるのは必須。

2-7.近隣への配慮が必要

- ・多目的広場などの屋外施設は子どもたちの声か響く。近隣にとって騒音は好ましくない。

- ・夜間まで不定期多数の人に入出入りされる体育館は不要。夜は静かにしてほしい。
- ・公園はあくまでも憩いの場として維持してほしい。静かな環境を守ってほしい。
- ・コンサート、プロスポーツなどイベント開催を兼ねた施設目的は、地域の特性に合わない。

2-8.休憩所跡地のあり方

- ・今まで東急駅から休憩所の壁が立ちただかっていたので、現休憩所を撤去すれば、崖線の緑が見られる（視界が広がる）。せせらぎ公園全体の顔となるべき入口をデザインしてほしい。
- ・駅前広場がないので、待ち合わせ場所、少しの屋根、雨がしのげるスペースもほしい。

2-9.プレイパークやディキャンプは？

- ・自然を活かす遊び場に体育館は不要？プレイパーク的なアウトドアにし、かまどや本門寺公園的なものを作る。

2-10.計画の進め方を再考して

■周知と合意形成が不十分

- ・体育施設について、「だいたい決まっている」とのことだが、決まっていること自体が許されない。規模想定がもう決まっているのは許されない。
- ・体育施設周辺エリア全体の活用について、もっと意見の交換が必要。再考を求める。

■必要性を再考して

- ・体育館は絶対に必要なものか再考してほしい。
- ・災害時の避難場所としての必要性がそれほど重要でなければ、体育館としての機能だけでは必要なし。
- ・なんでも有りの公園にする必要はない。体育館は他の場所を考えることも必要。

■段階的に取り組んでは？

- ・体育館の建設は慎重に！野外での運動エリアとして使うことから始めたらよい。

■災害が想定される場所で避難所に不適

- ・体育施設には反対。避難場所に不適。箱物は不要。
- ・体育施設の防災機能について心配。「想定外」の考え方はコリゴリ。建屋の建設には反対。
- ・「防災機能」としては底地につくるのは非常識で人命軽視。つくればよいというものではない。許されない。田小、田中のように高台につくるべき。
- ・体育施設の場所は以前も浸水があったと商店街の方が言われていた。ハコモノは不要。
- ・床をかさ上げした体育館が避難場所として適切なのか。地盤が軟弱。

■費用負担が心配

- ・体育館に固定しないで、多目的広場として使用してはどうか。管理事務所を設置しても、体育館では建設費もその後の管理費も掛かる。
- ・建設費用の話がいつも明示されない。

3. 富士見坂園地エリアに関する話題

3-1.自然と調和した整備

■現状の自然を大切に

- ・富士見坂園地の自然の現状を大切にしてほしい。
- ・今日も湧水地の水量が多く、先に進めないほどだった。遊歩道とかがあれば良いのかもと思うが、自然をなるべく残したいと気持ちで迷うところ。
- ・残り少ない緑の保存地を整備してほしい。

■木陰の快適性を保全すべき

- ・富士見坂の脇は樹木のおかげで真夏でも体感温度が涼しく感じる。今の環境はそのまま残して！

■立入制限して外から観察すべき

- ・坂下の自然は人が入らないことで形成された。バードウォッチングのように人は自然を外からそっとみるようにするといひ。

■湧水を活かした園地整備を

- ・第3水源は湿地、水源を活かした自然と調和した園路、植物園のような整備がよい。
- ・第3水源地。水源を利用した水辺の公園にすべき。
- ・湧水を活用した園地整備が望ましい。今のままでは人も入れない。

■樹木の伐採・剪定

- ・富士見坂園地の人工的に植えられた樹木はすべて除いた上で自然を復元すべき。
- ・古い樹木の剪定。散歩の際の足場の確保。
- ・樹木の伐採は専門家と区民が立ち会って確認すべき。
- ・必要以上に樹木を切らずに富士見会館への園路、ピオトープ、観察路を作ることは良い。

3-2.田んぼづくり

■平成16年度からの方向性を継承

- ・第一水源地の下にある田んぼを移転し、より多くの子供達と自然観察をしたい。
- ・H16年度に到達したものを大幅に変更することには反対。田んぼなどの施策の継続性を追求してほしい。

■市民参加による管理運営

- ・市民参加でピオトープ、自然観察ができるように、継続的に管理運営すべき。
- ・地域ボランティアの参加等で、田んぼや虫の採集等が出来る場になってほしい。

3-3.富士見会館につながる園路をつくる

- ・富士見会館まで楽しんで上がっていける自然のルートができるとよい。
- ・前回も湧水の所を見学したが、富士見坂沿いに富士見会館への通路を作れば良いと思う。
- ・駅から出張所に向かって公園内の動線をつくり、なるべく便利に。
- ・今までが未整備であったため今回適切に計画してほしい。富士見会館→出張所へのアプローチが必須で、環境に合わせたデザインをしてほしい。崖地の補強が必要では。

3-4.富士見会館につながる園路に課題あり

■利用ルールをつくるべき

- ・富士見会館への通路による混乱をきちんと想定すべき。富士見会館のエレベーターを活用することで富士見会館本来の利用が妨げられるかも。また、駅と富士見会館を往来する利用が自然観察の妨げになるかもしれない。富士見会館への通路として利用するときのルールをつくるべき。身障者のみ、夜は使わないなど。

3-5.富士見会館につながる園路に反対

■出来る限り自然のまま残して

- ・出来る限り自然のまま残すべき。富士見会館への園路には反対。

■そもそも出張所の移転に反対

- ・住民の安心安全のために安心安全をおびやかす開発をしようとしているのは、やめなければならぬ。田園調布特別出張所が富士見会館に移転しなければ良いので、バリアフリーで通路をつくり、湿地帯に道をつくったりすることはやるべきではない。
- ・特別出張所は田園調布全体からバランスを見ると、はしっこに移転するというのは、適正配置するという理由が意味をなしていなく、後づけの理由を言っているだけである。移転そのものを再考しなければならぬ。移転しなければ多摩川駅からのバリアフリーの道をつくる必要がない。

3-6.駐車場の計画に課題あり

■駐車場の出入りは？

- ・車道をどのように整備するのか。富士見坂から下って入るのであればOK。その他は園内を車が駐車場まで走ることとなり、子どもに危険が及ぶ可能性が大きい。
- ・富士見坂は下への一方通行のため、このエリアに駐車場入口などを設けるのは危険。
- ・第3水源地と多目的広場を結ぶ通路が狭すぎて車の通行はムリ。歩道のみとなる。

■木を切ることになるのでは？

- ・駐車場は樹木を切らないのであれば良い。

■出張所のための駐車場？

- ・出張所を意識した駐車場をつくるなら、出張所のすぐ下に地上から高くしてつければよい。
- ・出張所の議論と公園の議論は分けて行うべき。出張所に来人的のために公園内に駐車場をつくるのか。

3-7.駐車場の計画に反対

- ・富士見坂園地の駐車場は不要。
- ・駐車場にするのは反対。緑、湿地を守りたい。

3-8.駐車場は防災面から必要では？

- ・富士見会館下の緑地帯の有効利用（駐車場が防災面からも必要ではないか？）

4. 斜面林と湧水地エリアに関する話題

4-1.自然と調和した樹林管理

- ・人の手が入っていないように手を入れるのが望ましい。
- ・緑の多さ+植林。樹木は残すべき。
- ・できる限り自然のままに残すべき。樹木の整備は必要。
- ・樹木を整理してほしい。
- ・緑の多い公園と位置づけているがもう少し手入れが必要。

4-2.安全管理のためにも手入れは必要

- ・「自然を残すため樹林に手を入れない」ではだめで、高い木に大きな枯れ枝がぶら下がっているなど危険が放置されている。「手入れや管理」は必要。
- ・崖崩れへの安全対策は必須。（今のままで問題ないかの確認を含む）

4-3.持続可能な樹林管理

- ・持続的に良好な緑地として維持する必要がある。都市内の緑地であり、周辺環境も考慮するとまったく人の手を入れないというわけにはいかない。
- ・広大な土地に立派な森だが、手入れが出来ていないのできれいにするのは時間がかかる。

4-4.生物多様性を豊かに

- ・樹林、カブトムシ等昆虫の種により好むもの、例えばクヌギを多くしたり、ミカン、チョウチョなどに対応した植栽をしていくとよい。
- ・落葉樹を増やしてほしい。

4-5.研究者の意見を聞く

- ・自然保護については、研究者の意見を聞きながら計画してほしい。

4-6.子どもたちが自然とふれあい学ぶ場に

- ・貴重な自然の宝庫であることを再認識。ぜひ子どもたちがこの自然を学ぶことの出来るものにしてほしい。
- ・子供にとって水辺に触れるとてもよいエリア。斜面は子供あそびで削れたりするので保全を欠かさないで。

4-7.湧水地活用の継続

- ・湧水地の活用はそのまま続け、樹木は適したメンテナンスをして保ち、自然をそのまま残してほしい。
- ・湧水池の整備にあたり、自然をこわさないように。
- ・湧水を活かす。公園全体にうまく水路を作り、湧水を生かした公園にしてほしい（せせらぎ公園の名にふさわしいように）。水路にホタルが生きるとなると良いが。
- ・現状の池など周辺状況に、さらなる検討をし、きれいな緑地としてほしい。

4-8.自然に配慮した園路・施設のあり方

- ・水源からの小川とそれに沿った遊歩道があると良い。今の遊歩道は水の流れと関係していないように見える。
- ・園路設計等構造物は、自然を豊かにするため、擁壁は少なく、自然石積で。練石積でなく空積で。
- ・凸凹や段差の解消というのは、多摩川台公園で整備された際、自然が損なわれてしまいよくない。自然のままに。
- ・水辺を残し、休憩出来る場所を設置すべき。

5. 文化施設周辺エリアに関する話題

5-1.文化施設の内容

- ・図書スペースを充実してほしい。子供の読み聞かせスペースがあるとよい。
- ・出来た後で、こんなに大きなものかと驚いた。使い勝手の良い施設であってほしい。
- ・立派な構造物が完成した様だが、今後の運営面がスムーズに行く様をお願いしたい。

5-2.憩いの広場の利用

- ・文化施設には期待している。芝生の部分は利用の仕方を制限しないとすぐにはげてしまいそう。
- ・文化施設も良いと思うが、憩いの広場もピクニックなどによい。
- ・文化施設前の広場（芝生）は常時開放で良いと思う。
- ・憩いの広場。芝生、人が入っても耐えられる強いものを植えてほしい。
- ・広場の芝生は維持が大変なので、他と同様草原で良い。

5-3.近隣への配慮

- ・文化施設の使い勝手について、疑問と不安をもっている。事実上住民の利用が出来ないのではないか。
- ・文化施設は夜10時まで利用可というが、光が洩れるなど近隣の住環境への悪影響に配慮されていないと思う。
- ・区民と協議なく勝手に文化施設の開館時間などが決められ心配。

5-4.愛犬家が集う場の復元

- ・愛犬家も多いので、ドッグランとしての利用も復活させた方がよいのでは？
- ・草っぱら③をドッグランとしても使えるとよい。周囲に柵が必要かは愛犬家たちに確認する必要がある。
- ・この公園はリードをつけての犬の散歩は可能だが、リードを外した大型犬に怖い思いをしたことがある。愛犬家のモラルやマナーを啓発すべき。
- ・ドッグランは、犬を飼っている人のみか対象となるので反対。子供をかんだりした場合の責任問題など管理者責任を問われる可能性を排除できない。

5-5.駅側側面の緑化

- ・文化施設の駅側側の側壁に沿って樹木を植えてほしい。

5-6.現状の駐車場・駐輪場を評価

- ・管理ヤードの周辺に駐車場や駐輪場を確保しているのはとても良い。

5-7.文化施設の維持費

- ・文化施設の維持費がどのくらいかかるのか大変心配。データを明らかにすべき。

（意見は以上です）

今後の予定です！

■第3回ワークショップ

- 日時・場所：11月28日（土）9:30~12:30/富士見会館にて
- 予定テーマ：公園のあるべき姿について考えよう！

■第4回ワークショップ

- 日時・場所：12月19日（土）9:30~12:30/富士見会館にて
- 予定テーマ：公園の場所ごとに改修の方向性を確認しよう！

ご参加くださったみなさまへ

皆様方のご協力により、貴重なご意見をたくさん伺うことができました。

この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

残りのワークショップにおいても、変わらずにご協力いただけますよう、よろしくお願いたします。